

【食品開発科学科】

<<前期>>

1. 平成 25 年度前期 授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年	回答者数
柏田雅徳	醸造学	2	33
寺原典彦	食品学Ⅰ	2	28
中瀬昌之	食品加工学	2	31
金松澄雄	食糧生化学	2	9
紺谷靖英	代謝生化学	2	32
外山英男	発酵食品学	1	36
山田光子	薬理学	3	26
	合計		195

(参考)平成 24 年度前期 授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年	回答者数
柏田雅徳	食品開発実習Ⅱ	3	22
山田光子	薬理学	3	22
寺原典彦	食品基礎実験	1	27
外山英男	フードスペシャリスト論	1	29
紺谷靖英	微生物学	1	33
中瀬昌之	農産物利用学	3	23
	合計		156

(参考)平成 24 年度後期 授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年	回答者数
紺谷靖英	栄養学Ⅱ	3	23
中瀬昌之	食品学Ⅱ	2	26
黒木英浩	食品企業論	3	7
柏田雅徳	食品製造学	2	25
寺原典彦	食品分析学	1	27
外山英男	生物学Ⅱ	1	30
山田光子	生理学	1	29
金松澄雄	ニュートリゲノ3ミクス	3	20
	合計		187

2. 平成 25 年度前期 アンケート結果

設問番号	回答欄					回答数 (人)	平均値	
	5	4	3	2	1			
①	136	34	19	6	0	195	4.54	
②	21	41	79	31	21	193	3.05	無効回答2
③	41	45	80	23	5	194	3.48	未回答1
④	84	77	28	3	3	195	4.21	
⑤	76	60	38	16	4	194	3.97	無効回答1
⑥	129	50	13	2	0	194	4.58	未回答1
⑦	97	63	32	2	1	195	4.30	
⑧	110	68	16	1	0	195	4.47	
⑨	39	97	48	8	3	195	3.83	
⑩	69	91	31	0	4	195	4.13	
⑪	60	98	30	4	3	195	4.07	

各学期のアンケート結果

設問 1. 私はこの授業によく出席した。

平均値 4.54 で概ね良好である。一方、回答番号 3 以下の割合が約 13%存在する。引き続き学科教員間で学生の出欠状況の情報共有を行い、早い段階で怠学者の抽出を行い、指導教員を中心に対応していく。

設問 2. 私は授業内容について質問や発言をした。

平均値 3.05 で、これまでの授業評価アンケートの結果と同様に、設問中最も低い。しかし、従来よりも改善傾向にある。各教員が質問可能な時間帯を設けたり、学生が自主的に質問しやすい雰囲気作りをしたりするなど双方向性の授業形態に向けて努力した成果が表れている。

設問 3. 私はこの科目に積極的に取り組んだ(予習や復習をした)。

平均値が 3.48 で従来よりも上昇している。しかし、回答番号 2 以下が 14%いることに対しては対策を講じるべきである。大半の学生には自学自習の習慣が身に付いてきたと考えられる。

設問 4・5・6・7・8 は教員の授業実施方法に関する質問である。

平均値が 3.97－4.58 と概ね良好であり、同一科目が対象ではないが、従来 of 平均値をほぼ維持している。設問 5「教員の板書は見やすかった」に関しては、従来と比較して低下し(3.97)、設問番号 1 及び 2 の回答数が増加した(全体の約 10%)。これは、昨年度のアンケート実施時とは異なる授業科目及び担当者を対象としたためと考えられる。

設問 9. 私はこの授業内容を理解できた。

平均値が 3.83 と従来とほぼ同様の良好な結果であった。しかしながら、回答番号 3 以下の回答が約 30% 見られた。授業レベルを落とさずに学生の理解度を増すための教員側の努力が必要である。

設問 10. 将来役に立つと感じた。

平均値 4.13 であり、従来とほぼ同等の、概ね良好な結果であった。学生の立場から見て、学科で設定している科目群及び授業内容は概ね適切であると考えられる。

設問 11. 満足度

平均値が 4.07 で従来とほぼ同様の良好な結果であった。学生の立場から見て、学科で設定している科目群及び授業内容は概ね適切であると考えられる。

<<後期>>

1. 平成 25 年度後期 授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年	回答者数
食品製造学	柏田雅徳	2	26
食品分析学	寺原典彦	1	35
食品学Ⅱ	中瀬昌之	2	67
生物化学Ⅱ	金松澄雄	1	33
栄養学Ⅱ	紺谷靖英	3	28
生物学Ⅱ	外山英男	1	33
生理学	山田光子	1	40
	合計		262

(参考)平成 24 年度前期 授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年	回答者数
柏田雅徳	食品開発実習Ⅱ	3	22
山田光子	薬理学	3	22
寺原典彦	食品基礎実験	1	27
外山英男	フードスペシャリスト論	1	29
紺谷靖英	微生物学	1	33
中瀬昌之	農産物利用学	3	23
	合計		156

(参考)平成 24 年度後期 授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年	回答者数
紺谷靖英	栄養学Ⅱ	3	23
中瀬昌之	食品学Ⅱ	2	26
黒木英浩	食品企業論	3	7
柏田雅徳	食品製造学	2	25
寺原典彦	食品分析学	1	27
外山英男	生物学Ⅱ	1	30
山田光子	生理学	1	29
金松澄雄	ニュートリゲノミクス	3	20
合計			187

2. 平成 25 年度後期 アンケート結果

設問番号	回答欄					回答数 (人)	平均値
	5	4	3	2	1		
①	192	40	24	5	1	262	4.59
②	20	60	106	49	27	262	2.99
③	32	87	92	40	10	262	3.34 (未回答 1)
④	131	89	35	3	2	262	4.29
⑤	113	90	40	17	2	262	4.13
⑥	171	68	20	3		262	4.55
⑦	135	81	41	3	2	262	4.31 (未回答 2)
⑧	142	88	28	2	1	262	4.39
⑨	55	114	69	19	5	262	3.74
⑩	105	94	52	6	5	262	4.10
⑪	86	97	67	9	3	262	3.97

各学期のアンケート結果

設問 1. 私はこの授業によく出席した。

平均値 4.59(23 年度後期 4.55, 24 年度前期 4.68)で概ね良好である。一方、回答番号 3 以下の割合が約 11%存在する。引き続き学科教員間で学生の出欠状況の情報共有を行い、早い段階で怠学者の抽出を行い、指導教員を中心に対応していく。

設問 2. 私は授業内容について質問や発言をした。

平均値 2.99 で、これまでの授業評価アンケートの結果と同様に、設問中最も低い。24 年度前期には平均値が 3 を上回り改善傾向が見られていたが、今回はほぼ同様の結果となった。理由としては、①アンケート実施を講義科目のみに限定したことにより、学生の発言の機会が少なかったこと、②対象教員数が増加したこと、などが挙げられる。各教員が質問可能な時間帯を設けたり、学生が自主的に質問しやすい雰囲気作りをしたりするなど双方向性の授業形態に向けて努力していく。

設問 3. 私はこの科目に積極的に取り組んだ(予習や復習をした)。

平均値が 3.34 で 24 年度前期(3.64)を少し下回った。特に、回答番号 2 以下の割合が約 20%となっており、設問 2 と同様の理由が考えられる。より多くの学生に自学自習の習慣を身に付けさせるための具体的な指導を今後行う。

設問 4・5・6・7・8 は教員の授業実施方法に関する質問である。

平均値が 4.13－4.55 と概ね良好であり、同一科目が対象ではないが、これまでの平均値をほぼ維持している。設問 5「教員の板書は見やすかった」に関しては、これまでかなり高い平均値が得られていたが(平均値 4.30)、回答番号 1 及び 2 の回答が約 7%あり、授業科目によっては改善が必要なケースがある。

設問 9. 私はこの授業内容を理解できた。

平均値が 3.74 とこれまでの平均値(3.9 前後)と比較し僅かに低下した。回答番号 3 以下の回答が約 35%となっており、授業科目によっては学生にとって理解が困難な内容があることがうかがえる。そのため、授業レベルを落とさずに学生の理解度を増すための教員側の努力が必要である。

設問 10. 将来役に立つと感じた。

平均値 4.10 であり、これまでの平均値(4.0－4.1)とほぼ同様である。学生の立場から見て、学科で設定している科目群及び授業内容は概ね適切であると考えられる。

設問 11. 満足度

平均値が 3.97 でこれまでの平均値(4.0－4.1)より若干低下したものの、授業内容は概ね適切であると考えられる。学生の立場から見て、授業満足度が上がるように更なる努力が必要である。